

〔神皇正統記後醍醐〕諱は尊治略○中御母は談天門院藤原忠子、内大臣師繼の女、實は入道參議忠繼の女なり、

〔歷代皇紀〕稱光天皇、諱躬仁、改實仁、後小松院第一皇子、母光範門院、儀同三司資教女、實贈左大臣資國女、

〔宣胤卿記別記〕文明十三年七月廿六日己亥、今日當今後土御門御母儀准后信子長朝名卿臣也、故和氣郷成朝臣

爲猶子、其後故保家朝臣猶子、後又故大炊御門入道前内大臣宗隆

〔御湯殿の上の日記〕天正十四年十二月十六日、このへどの藤原ひめぎみ前くわんばく殿豐

吉秀やうしに參られて、女御陽成に御參り、御たる十かう十か參る、御くしあげ御さたありて、つ

ねの御所にて三こん參る、玄よこんはうそう、二こんかへに御ひら、三こんふな、御はいせん、すけ

殿ながはしいよ殿、女御はいせん、女中御とをりあり、

〔日本書紀十七〕八年正月、太子閑妃春日皇女、晨朝晏出、有異於常略○中太子恠問曰、今且涕泣、有何

恨乎略○下

〔日本書紀十八〕元年三月戊子、有司爲天皇、納采億計天皇女、春日山田皇女爲皇后、

〔日本書紀三十〕高天原廣野姬天皇、少名鷓野讚良皇女略○中天豐財重日足姬天皇三年、適天淳中原

瀛真人天皇武爲妃略○中天淳中原瀛真人天皇元年六月、從天淳中原瀛真人天皇避難東國○中二

年立爲皇后、

〔續日本紀二十二〕天平寶字四年六月乙丑、天平應真仁正皇太后聖武后崩、姓藤原氏、近江朝大織

冠内大臣鎌足之孫、平城朝贈正一位太政大臣不比等之女也、母曰贈正一位縣犬養橋宿禰三千代、

皇太后幼而聰慧、早播聲譽、勝寶感神聖武皇帝儲貳之日、納以爲妃、時年十六、攝引衆御、皆盡其歡、雅

閑禮訓敦崇佛道、神龜元年、聖武皇帝卽位、授正一位正一位、從三位、爲太夫人、生高野天皇及皇太子、其皇

初爲太子妃後  
爲后